

## 九州地域における低密度植栽の検証について

### 1 テーマの趣旨・目的

近年、人工林が本格的な利用期を迎えたことにより主伐が増加する中、再生林に当たっては、造林コストの低減が求められている。

再生林の低コスト化については、最近様々な取り組みが行われるが、平成 16～18 年に九州各地の国有林に、低密度で植栽した箇所（1,500 本/ha）の検証を実施したので報告する。

### 2 現状及びこれまでの取組の成果・課題

#### (1) 現状

再生林の実施にあたっては、低コスト化での取り組みが求められている。

最近、植栽本数については従来の植栽本数より低減（2,500 本/ha→2,000 本/ha）されているものの、更なる植栽本数の低減が期待されている。

#### (2) 取組内容

試験地は、平成 16～18 年に設定し植栽本数 1,500 本/ha の試験地を設定し、隣接地に比較対象林分を設定し成長量等の比較を実施した。

#### (3) 成果

今回の検証では、低密度の植栽であっても問題なく成林しており、再生林の低コスト化に向けた選択肢の一つになると考える。

※目標値等を定めた場合はその成果を含む

#### (4) 課題

試験地の一部ではシカによる被害が発生しているため、シカの生息状況及び被害状況の把握が必要。

### 3 今後取組むべき内容

#### ①具体的手法又は検討方向

伐期までの、成長状況の継続調査及び、主伐時における蓄積量の比較、さらには最終的な造林・収穫トータルコストの比較を実施する。

#### ②理由

低密度植栽を実施していくうえで、調査結果が必要となるため。

#### ③期待する成果

本試験結果を活用することにより低コスト造林の施業体系を確立するために、今後も継続調査を実施する。